

2012年6月4日

各位

株式会社オリエンタルランド

東京ディズニーシー『レイジングスピリッツ』における 事故原因および再発防止策について

5月28日16時08分頃に発生しました、東京ディズニーシーのアトラクション『レイジングスピリッツ』の事故に関する調査が終了いたしましたので、ご報告申し上げます。

また、調査終了を受け、今後の再発防止策を策定しましたので、あわせてお知らせいたします。

お怪我をされたゲストをはじめ、多くのゲストの皆さまに多大なるご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

なお本内容は、本日付で千葉県県土整備部都市整備局建築指導課に報告しております。

1. 事故原因

このたびの事故は、“出発操作後に一時停止した”当該ゲストを乗せた乗り物が、安全バーを上げたまま出発したことにより発生したものです。当該ゲストは、バーが上がったままの状態で乗り物が出発したため危険を感じて乗り物から降りようとし、軌道脇に転落し怪我をされましたが、ゲストの行動のきっかけは、一時停止した乗り物が出発したことにあります。

この、安全バーが上がった状態のまま動き出した原因は、**安全バーの仕組みに関する教育が徹底できていなかったため、状況を誤って認識したこと**にあります。

『レイジングスピリッツ』の安全バーについて

『レイジングスピリッツ』は、360°ループするというアトラクションの特性上、東京ディズニーリゾートで唯一、乗り物の出発後は安全バーが上にも下にも動かなくなる状態でロックされる仕組みを取っております。これは乗車中の安全性を高めるための仕組みであり、安全バーを適度な位置で保ちゲストの身体を固定します。

そのため、『レイジングスピリッツ』の安全バーの機構には以下のような特徴があります。

【出発操作前に一時停止操作が行われた状態】

安全バーを下げることができる

【出発操作後の一時停止状態】

安全バーを下げることはできない

※今回の事故は、これらの特徴のキャスト教育が徹底しきれていなかったことに起因します

2. 事故の状況

当該ゲストを含む9名のゲストが乗車していた2両編成の乗り物が出発する際、空席となっていた最後尾左側の座席（1席）の安全バーが上がっていることに気付いたキャストが、出発操作の直後に一時停止操作を行いました。

出発操作と一時停止操作をほぼ同時に行ったため、当該乗り物は出発位置から動くことなく“一時停止状態”となりました。

乗り物が動かなかつたため、乗り場の業務に携わっていたキャストは“出発操作前に一時停止操作が行われた状態”という誤った認識を持ちました。

※実際には出発操作の方がわずかに早く行われていたため、乗り物は“出発操作後の一時停止状態”にありました

空席の安全バーを下げるために、キャストは解除ペダルを踏み2両目の乗り物の安全バーのロックを解除しましたが、乗り物が“出発操作後の一時停止状態”であったため、安全バーは下げることができない状態でした。

ロックが解除されたことに伴い、怪我をされたゲストの安全バーも、完全に上がった状態となりました。

このたびの事故は、このタイミングで生じた“安全バーが下がらない状況”に対し、“安全バーが下がらない状況”＝“乗り物は出発操作後の一時停止状態にある”
ということを理解していれば防ぐことができました。

しかしながら、当社の安全バーの仕組みに関する教育が徹底されていなかったため、乗り場の業務に携わっていたキャストは、乗り物が“出発操作後の一時停止状態にある”可能性に気づかないまま、通常行う“出発操作前に一時停止操作が行われた状態”における対応手順を進めたものです。

乗り物が“出発操作前の一時停止状態”にあるという誤った認識を持ったまま、通常行う出発に向けての手順として「一時停止の解除操作」を行いました。

実際には、乗り物は“出発操作後の一時停止”状態（一時停止を解除すると動き出す状態）にあつたため、当該ゲストの安全バーが上がった状態のまま出発しました。

安全バーが上がっていたことに危険を感じた当該ゲストは、乗り物から降りようとし、軌道脇に転落し怪我をされました。

乗り物の出発後、キャストが停止措置を行ったことにより、当該乗り物は出発後の最初のブレーキポイントで安全に停止しました。

3. 再発防止策について

再発防止策として、弊社では今般の事故の原因である安全バーに関する知識不足の解消を中心とした「安全教育」を実施いたします。あわせて、ゲストの安全バーが上がったまま出発することを防止するための手順変更など、「マニュアルの見直し」を行います。

安全教育

『レイジングスピリッツ』の運営に関わるすべてのキャストに対し、主に“レイジングスピリッツ特有の安全バーのロックや解除などの仕組み”の知識教育や実地教育を通じ、安全バーの仕組みの理解徹底を図るなど、さまざまな状況に適切に対応できる知識、スキルを身につけさせるべく、安全に関わる教育プログラムを改定する。

マニュアルの見直し

“出発操作の前・後”を問わず、一時停止作動時に安全バーが下げられない座席があった場合は、すべてのゲストに降車いただくことで、バーが下がらないすべての状況においてゲストの安全を確保できるようにするなど、既存マニュアルの変更を行う。

4. このたびの事故を受けて

今回、このような事態となり、お怪我をされたゲストをはじめ、多くのゲストの皆さまに多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

弊社といたしましては、確固たる安全性の構築に、全社一丸となって取り組んでまいります。

なお、今回の事故に関し、安全を最優先に取り組んできたもののその信頼を損なう事態を招いたことの重大性に鑑み、以下の通り役員の報酬返上を決定しましたのでお知らせいたします。

代表取締役（会長、社長、副社長）	月額報酬	30%減額（1ヶ月）
専務・常務取締役	月額報酬	20%減額（1ヶ月）
取締役・執行役員	月額報酬	10%減額（1ヶ月）

弊社では、前述の安全教育やマニュアルの変更を行い、十分な安全性が確認された上で、『レイジングスピリッツ』を再開させることといたします。

再開日につきましては、確定次第お知らせいたします。

以上